



スクールソーシャルワーカーによる

小学校での **居場所** づくり

目次

● スクールソーシャルワーカーによる	
小学校での居場所づくりの目的・意義	…P.2
● のんびりな部屋	…P.3
● ほっとろーむ	…P.5
● おたのしみルーム	…P.7
● ぽかぽかルーム	…P.9
● ほっとルーム	…P.11
● きずなルーム	…P.13
● ほっとステーション	…P.15
● そろだんしつ ver.1	…P.17
● そろだんしつ ver.2	…P.19
● そろだんしつ ver.3	…P.21



スクールソーシャルワーカーによる小学校での居場所づくりの目的・意義

子どもが成長発達していく過程で習得していく技能に「社会化」(social skill)があります。子どもの社会化形成では、①して良いこと、悪いことの習得と、②相手を思いやる心の育ちと相手への憎悪を抱く心の抑制があげられます。そして、子どもの社会化形成には、親子間や大人-子ども間の「縦の社会化」と子ども同士の「横の社会化」があります。しかし、今日の家庭環境や学校環境、地域環境は子どもの社会化形成を妨げている状況もあります。

特に学校環境で深刻な問題となっているのが不登校です。学校を欠席することで、子どもは学習機会を失い、学力の低下が危惧されていきます。社会化形成においては、小学校の中学年以降は友人関係の発達が著しくなり、単に遊ぶ友人から親友へと友人関係を深めていきます。しかし、不登校になることで、この友人関係を深める機会も少なくなります。子どもの成長発達過程における友人関係の発達は、大人社会へ歩んでいくうえで重要な発達となります。

近年、子どもの社会化形成において、重要なキーワードとなっているのが、「居場所」です。居場所の用語が使用されるようになったのは、不登校問題が1980年代より顕在化し、子どもたちにとって学校以外の居場所としてフリースペースやフリースクールが注目されていくことになったことによります。その後、居場所の用語は広く使用されるようになり、不登校だけではなく、乳幼児から高齢者まで幅広い世代にまで広がり、居場所の機能として「心」「安定」「安心」「やすらぎ」といった言葉が含まれるようになりました。そして、子どもの居場所づくりも国の施策として推進され、2004年度に文部科学省は「子どもの居場所づくり新プラン」を策定し、学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所(活動拠点)を設ける「地域子ども教室推進事業」を開始しました。また、内閣府は2021年の「子供・若者育成支援推進大綱」において、「子供・若者が誰ひとり取り残されず、社会の中に安心できる多くの居場所を持ちながら成長・活躍していけるよう、支援の担い手やそのネットワークを強化しつつ取り組む」と謳っています。

不登校は、学校環境が子どもの居場所になっていないことによるとも考えられます。子どもが笑顔で登校してくるためには、学校に足が向かう魅力が必要です。勉強が楽しい、親しい友達や先生がいるなどです。しかし、これらに子どもたちが魅力を感じられない場合には、登校への意欲が低下していきます。このような子どもたちにおいては、どうしたらいいのでしょうか。もう一人、友人や先生以外に話を聴いてくれる人がいればどうでしょう。それがスクールソーシャルワーカーです。そして、話を聴いてくれる場所がゆったり、リラックスする場所であれば、子どもたちはその場所に來ます。それが、居場所です。その学校内の居場所を安らぎの拠点にしなが、教室での勉強や友人関係づくりに取り組めるかもしれません。

以上の事由から、この冊子では、スクールソーシャルワーカーによる新たな子ども支援として、社会化形成が重要となる小学校年齢の子どもたちに小学校での居場所づくりを紹介していきます。ぜひスクールソーシャルワーカーの皆さん、学校教職員の皆さん、教育委員会の皆さん、保護者や地域のみなさん、スクールソーシャルワーカーによる小学校での子どもの居場所づくりに賛同してください。

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会会長 門田 光司